

付録 9

アブラハム：イスラム原初の使徒

一般的な誤解の一つに、ムハンマドがイスラム教の創始者であるというものがある。アダムから、神のみへの完全な服従こそが神に認められた唯一の宗教であるが（3:19, 85）、コーランによれば、「イスラム」という言葉を最初に使い、私たちを「ムスリム（サブミター）」と呼んだのはアブラハムであると記されている（22:78）。神に対するアブラハムの模範的な服従は、それが神の命令であると考えた際、独り子イシュマエルを犠牲に捧げようとした有名なエピソードによって証明されている。しかし、結局のところ、そのような命令は実はサタンからのものだった。

神はアブラハムに息子を犠牲にするよう命じてはいない

神は最も慈悲深いお方である。神が自らの法に背くことは決してない（7:28）。慈悲深いお方がアブラハムに息子を殺すよう命じたと信じる者は、神の天国にたどり着くことは到底できない。神に対するそのような邪悪な考えは、甚だしい冒涇である。コーランのどこにも、神がアブラハムに息子を殺すよう命じたとはい記されていない。それどころか、神はサタンの陰謀からアブラハムとイシュマエルを救うために介入し（37:107）、アブラハムに「おまえは（サタンに見せられた）夢を信じ込んでしまった」と告げられた（37:105）。疑いようもなく、それはサタンに触発された夢だった。神の不変の法はこうである。「神は決して罪（悪行）を勧めない」（7:28）。

ミッラ・イブラーヒーム（アブラハムの宗教）

イスラムは、コーラン全体を通して「ミッラ・イブラーヒーム（アブラハムの宗教）」と呼ばれている（2:130, 135; 3:95; 4:125; 6:161; 12:37-38; 16:123; 21:73; 22:78）。さらに、コーランはムハンマドがアブラハムの追隨者であったことを私たちに伝えている（16:123）。

アブラハムがイスラムの原初の使徒であったという事実が一般に認識されていないため、自称ムスリムの多くが神にこう挑む。「もしコーランが（神が主張するように）完璧で詳細を尽くしたものであるなら、各礼拝（サラート）のラクア（単位）の数はどこに記されているのか？」と。私たちはコーランから、イスラムのすべての宗教的実践はコーランが啓示される以前にすでに確立されていたことを学ぶ（8:35, 9:54, 16:123, 21:73, 22:27, 28:27）。16章123節は、ムハンマドが生まれた時、イスラムのすべての宗教儀礼が完全な形で存在していたことの直接的な証拠である。ムハンマドは「アブラハムの宗教に従うこと」を命じられた。もし私

があなたに「カラーテレビを買ってきて」と頼むなら、あなたがカラーテレビとは何かを知っていることが前提となります。同様に、神がムハンマドにアブラハムの慣習に従うよう命じた際（16:123）、それらの慣習は周知のものであったはずである。

アブラハムに授けられたイスラムの慣習が神によって守られてきたもう一つの証拠は、それらの慣習の「普遍的な受け入れ」にあります。1日5回の礼拝におけるラクアの数について、異論を唱える者はいません。これはサラートが神聖に保存されてきたことを証明している。コーランの数学的コードは、5回の礼拝のラクア数（2, 4, 4, 3, 4）を裏付けています。この「24434」という数字は19の倍数です。

コーランは、歪められてしまった慣習のみを取り扱っています。例えば、歪められたウドゥ（お清め）は、5章6節で本来の4つのステップに修復された。サラート中の声のトーンも歪められ、多くのムスリムが無言で祈っているが、これはコーランの17章110節で修正された。ラマダン中の断食は、夜間の性交渉を許可するようコーランで修正された（2:187）。義務の慈善（ザカート）は6章141節で、巡礼（ハッジ）は正しい4ヶ月間に修復された（付録15参照）。